

阿蘇山の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター

＜噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）が継続＞

中岳第一火口では、本日（8日）12時14分にごく小規模な噴火が発生しました。阿蘇山で噴火を確認したのは本年（2015年）5月21日以来です。

【防災上の警戒事項等】

今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がありますので、中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。火口周辺では強風時に小さな噴石が 1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石にも注意してください。

○ 噴火の状況（図 1、図 2 - 1、図 2 - 2、図 3）

阿蘇山の中岳第一火口では、本日（8日）12時14分にごく小規模な噴火が発生しました。噴煙は灰白色で、火口縁上 600m まで上がりました。阿蘇山で噴火を確認したのは、本年（2015年）5月21日以来です。

○ 現地調査の状況（図 2 - 1、図 2 - 2、図 3）

本日（8日）福岡管区气象台が実施した現地調査では、中岳第一火口の南側でわずかな降灰を確認しました。噴煙のため火口底の湯だまりの状況は不明でした。

○ 火山活動の状況（図 4）

火山性微動の振幅は 7 月 14 日から小さくなっています。孤立型微動¹⁾はやや多い状態で経過しています。火山性地震は時々発生しています。

8 月 6 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,100 トンと多い状態でした。

1) 阿蘇山特有の微動で、火口直下のごく浅い場所で発生しており、周期 0.5~1.0 秒、継続時間 10 秒程度で、中岳西山腹観測点の南北動の振幅が 5 μ m/s 以上のものを孤立型微動としています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、九州大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所及び阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報』『基盤地図情報（数値標高モデル）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

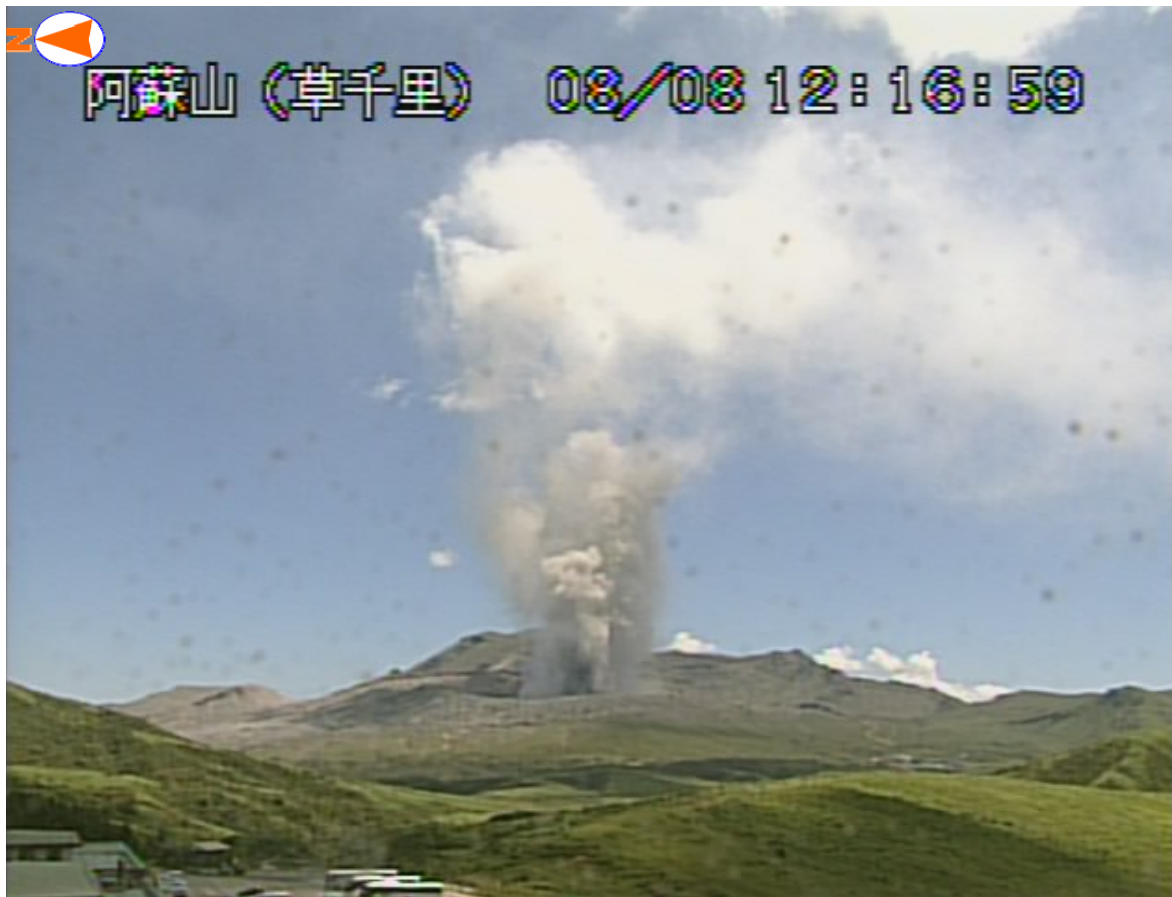


図 1 阿蘇山 噴煙の状況（8月8日、草千里遠望カメラによる）
灰白色の噴煙が火口縁上 600mまで上がりました。



図 2-1 阿蘇山 阿蘇山公園道路脇から撮影した噴煙の状況（8月8日）



図 2-2 阿蘇山 火口南側から撮影した噴火の状況（8月8日）

中岳第一火口から灰白色の噴煙が上り、周辺にわずかな降灰があることを確認しました。
噴煙のため火口底の湯だまりの状況は不明でした。

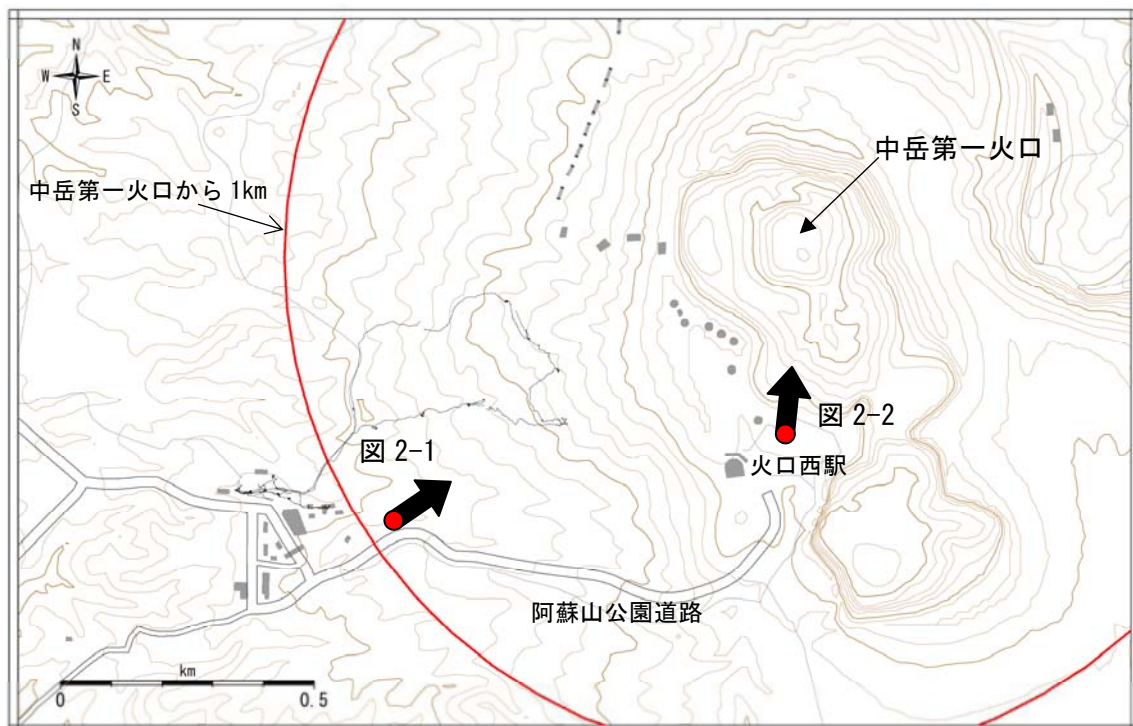


図 3 阿蘇山 8日に実施した噴火の撮影場所と方向

中岳第一火口の南側（火口西駅付近）でわずかな降灰を確認しました。

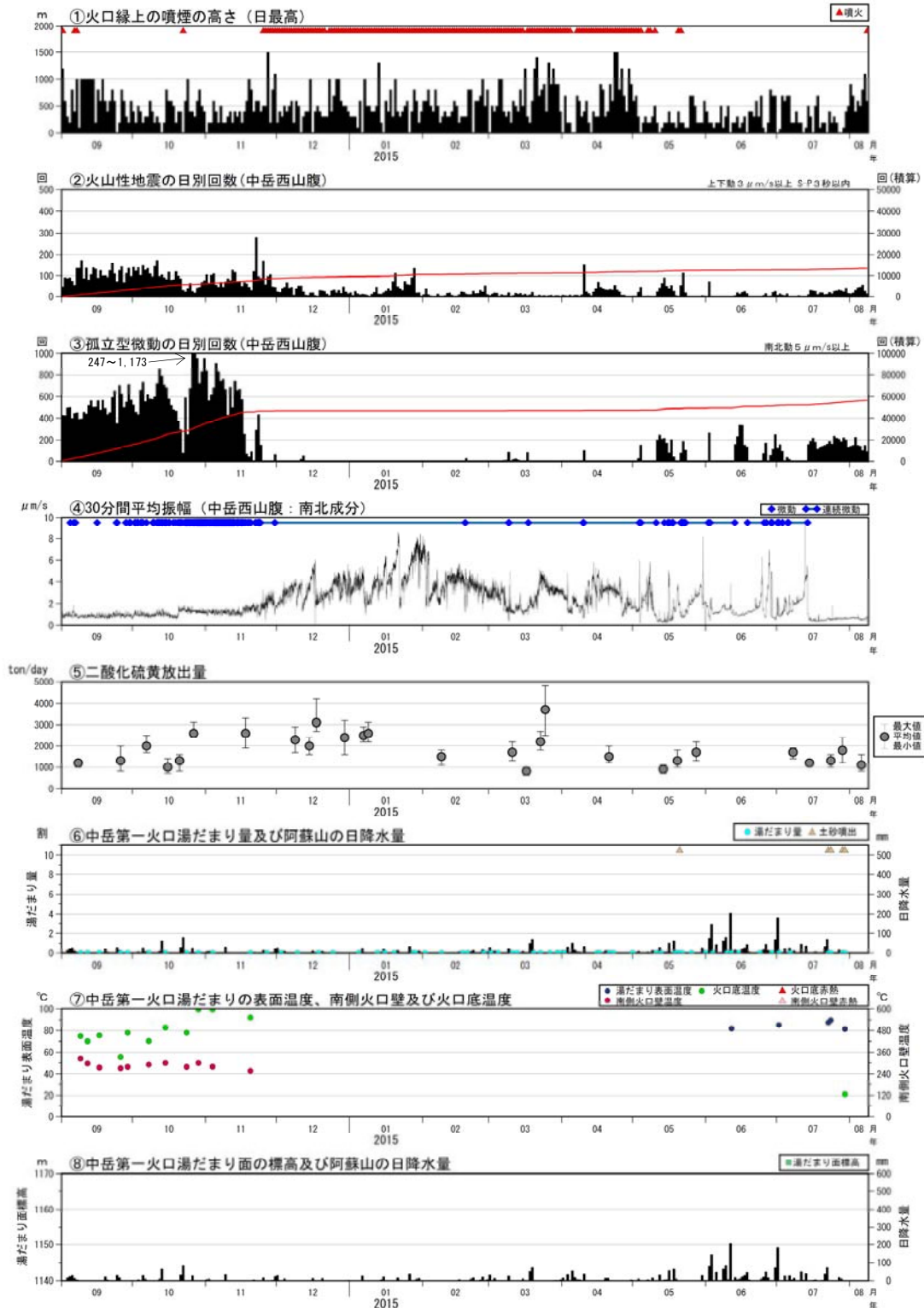


図4 阿蘇山 火山活動経過図 (2014年9月~2015年8月8日)

<8月1~8日の状況>

- ・本日(8日)12時14分にごく小規模な噴火が発生しました。噴煙は灰白色で、火口縁上600mまで上がりました。
- ・孤立型微動はやや多い状態で経過しています。火山性地震は時々発生しています。
- ・8月6日に実施した現地調査では、二氧化硫黄の放出量は1日あたり1,100トンと多い状態でした。

②と③の赤線は回数の積算を示しています。

火山性地震の振幅が大きい状態では、火山性地震、孤立型微動の回数は計数できなくなっています。

⑦の湯だまり温度等は赤外放射温度計で計測していましたが、2015年6月から赤外熱映像装置により計測しています。